

非暴力直接行動

83.4.20.

132

戦争抵抗者インター日本部 (WRI-JAPAN) 大阪市阿倍野区加町2-12-2 発行 ウリ大阪-水田あゐ



反日・アイヌモシリへの旅

Kōji Fu

Ⅰ・大森裁判・判決の意味

いざ北海道へ行くとなると、ぎょうさんお金が要るなあ、ちよっと遠すぎるなあ、なんて迷ったけど、やっぱり行ってホンマによかった。行ってみなわからん。かんじられん。百南は一見に如かずということが実にあるのだ。

判決前日の28日。サッポロに着いてすぐ面会にいった。

正直いうと、大森くんの本心やっつけていない俺を目撃できるか！ 丘を行くまえにやっとこさで読んだんやけど、

あれを読むと、あらためて、完結ちゅうことが、どんなにたいへんなことやったんかがわかる。それをやりとあしたというのになんや圧倒されるかんじで、それに、前回面会にいったおんなたちが、ガラス越しにキッスしたとか、おっはいみせたとかいうウワサがあって、うわあ私そんなことよあせんワと、せんせんきよおきよおとMさんDくんのうしろから面会室に入っていたらー

まあ、なんちゅう男や。入ってくるなり遮断ガラスにわあっとへばりついて、ニコニコ笑って、全身でわたしらをむかえてくれるではないか。なんや、ずうと昔から仲良しだったみたいない感じがしてきた。



4・29・天皇様がなんかにされる日、PH1 於梅田・大船寺・昨年のハハラ大集会以上の内容あるものをと取組んでいます。ぜひ！

War Resisters' Information

そんで、オー声が

「俺の妹に似てるよ。妹みたいや」。

「私の方が二つも年上やねんでいうても、すっかり妹にされてしまった」。

けど、「革命家やなんて、俺だって、おっかなびっくりでやってるんだよ」なんていう大森くんは、とても身近な人に感じられる。

大森くんは、あしたの判決はたぶん有罪判決まじがいないだろう、といったけど、あしたは、なんとしても外で会うのだ、と強く思った。拘留所の窓口の看守さん、「大森センセは無罪でねえの」と云ってるぐらいなんだからー。

x

x

x

だが裁判はおそろしいもんやった。

裁判長が着席しても、大森くんがなかなか入ってこない。何でやろ。その向の無気味な静けさ。何かあ、たんかー。胸がドキドキしてきて張りさけそうだった。

とたんにバカドカという看守の歓音がして、大森くんが入ってきた。被告があそこに来るなんて、私にははじめてのことだった。

生島裁判長が、「では判決を云いわたす」というと、大森くんがぱっと立上った。「俺は、最終意見陳述で、検察官のデッチ上げを、こことここ、ばみじんに粉碎した。その意見陳述書を提出してから、今日でまだ8日しかたっていない。おまえは俺の意見陳述書を読んだのか。こんな短い時間で検討できるはずがない。俺の陳述を検討しないで、おまえはどおやって判決文を書いたのか。それを説明しろ。」ゆっくりと落ちついた調子で、しかも堂々とのべる。さすが、大森君

すっかりしてるー。だが裁判長はいともあっさり「却下」。

そこで声をあげたアイヌのAさんが退廷叫一呼。

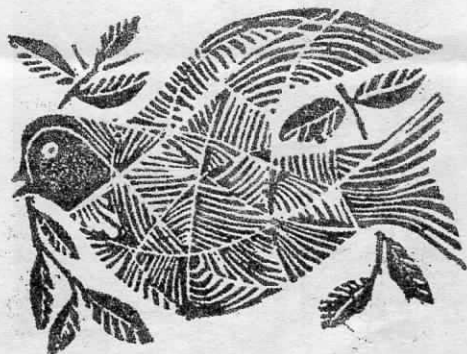
そして、判決主文をあともわしにして、まず大森くんの経歴から、それも、大森くんは生まれてきたときから爆弾闘争を目ざしてきたんやというよう云い方で、こりやもう有罪まじがいないと、誰もが感じるぐらいなんともひどい敵意あきだしの内容を読みあげた。

「北太から盗まれた消火器がおまえの家から発見された。だが爆弾に使われた消火器はおまえの家から発見されなかった。それは、おまえが爆弾に使ったからないんや。ないのがやった証拠や」

「こんなひどい話がありますか。これじゃ誰だって犯人にされちゃうヨ」。

「声明文に書かれている半印については、大森が書いたものでないという鑑定断定は、この鑑定人からも出てない。よって、大森が書いたと推論できる」なんて、ホニマにメ々メ々や。たしかに書いたという証拠を出すのが、おまえの商売やろ！

「目撃証人の証言は、臨場感にあふれ、大森が犯人であるとする証言として信頼できる」だって？？ それだけの微妙なラッ



とみて、臨場感あふれる人相を証言することこそ、デッチあげくさいというもんやないか。

それから、こゝに突然にこういうことがよほど頭にきてるらしいのだ。黙秘権というのは法律にちゃんと定められた権利なのに、裁判官みずから、この権利を全否定している。

「あまえがやったからこそ、あまえにとって都合が悪いからこそしゃべらないのだ。黙秘するのは、やっける証拠や」ときた日にゃもう笑いごとではない。

Mさん、とうとうがマン出まなくなつて、「よっしゃ、よっしゃごころーさん。もうようわかつた。こんな茶番裁判さいとれんわ」と叫んで、ついに退廷第二号！



(▼) 外に送り出されたばかりは、みんなに法廷の今迄の経過を報告したあと、もう手もちぶさたでたゞ待つばかりで、何かやることないかと厳戒中の裁判所をひとめぐりして裏中へくるとテレビが石垣の上にカメラの放列をひいて、法廷から護送車にのりこむ隣岡の大森くんを待ちかまえていた。

その中にまじって立っているとか何かじつとしてはおれなくなつて、ぼくは思わざ大声でまわりに語りかけた。

『今日、この地裁で行われてること

は一体、何やろか。そして、いまあんた方がやろうとしてることは……。

マスコミの諸君！

判決はもうすぐ出る。そして、有罪・死刑にほとんどまちがいないやろ。

それを、たゞたしかめるために、あんた方はさっきからここで待っているのか。実はもう胸の中で記事が出来かけてるんやないか。使いたれた常套句「血に飢えた無差別テロの殺人鬼、大森、死刑の判決」といった……。だが、いまから一時固前のあんた方の予測は、無罪・有罪、半々というもんやつた。誰もかそういつていたやないか。

1月、大森くんの最終意見陳述で、この六時半の裁判が結審したとき、誰の目からも検察のデッチ上げはホロボロにくずれてしまった。あんたらの中のある新聞は「大森は無罪か」とも書いた。

そうや、その通りや。大森君は無実であり無罪なんや。

たとえ検察の主張に耳をかすとしても、刑法法精神がうたっているように「うたがわしきは被告人の利益に」であり、はっきりにした証拠がひとつもない以上、判決は無罪しかあれへんというこっちゃ。

それが、無罪・有罪半々の予測になるのは、この国の裁判の公正さへの疑念、国家の意志に左右される思想裁判のおそれ、みんなが感じとらざるをえないという状況が、いま何よりもあることをあらわすものやろ。

そして、だからこそ、今日の大森判決は、その懸念そのおそれを

みんなが感じとらざるをえないという状況が、いま何よりもあることをあらわすものだろう。

そして、だからこそ、今日の大森判決は、その懸念そのおそれよりも向題とし、あきらかにするものとして取材され報道されるんでなければ、一体どんな意味があるんか。

それを判決次や、結果次やで、まるで天と地以上にもちがう書き方をして大森くんを極悪犯に仕立てるという今迄通りのやり方が、ひよっとしたらいままことにくりひろげられようとしているのではないんか。

ぼくは何よりも諸君にいたい。

あんな達の立場はどこにあるんや。今からでも決しておそくはない。あんな達の立場、自分の立場をはっきりせいで。

そして又、ぼくは一人の人間として断言する。

「今日、生島ほかの裁判官たちは、大森くんの『無実』を裁くことで、自分を『有罪』としたんや」と。「そして大森君に死刑を宣告することで、実は自分が何よりもたのみとするこの国の裁判制度に死刑を宣告したんや」と。

そのことは、必ず、事実と『史』がはっきりと証明するだろう。

さういふこと言

あんな方は、「判決」に加担するんか、それとも「事実」と「『史』」に加担するんか。それを証明するものとして今夜の大森ニュースをつくってほしい。と。」

X

X

X

Mさんが退廷させられたあと、私は「証拠がないのが証拠や」

というけど、証拠がないことをむこうもみとめてるんやから、もしや、というおもいもあって、それに共犯やいいながら、そのことにひとつもふれずに、全部を大森くんにかぶせることもでけへんやろ、死刑にはよおせんかもと、最後の最後まで望みをかけた。

もう終り近いナ、と緊張して裁判官をにらんでいたら、その時、いきなり大森くんがバツと机をつきこぼし、裁判長席めざしてどびかかった。裁判官をぶんなぐろうとしたんや。あたりまえや、こんなヤツ。

「大森くんガンバレ」とみな立上って応援したが、看守にたちまちとり押えられ、彼は法廷からつれ出されてしまった。

大森くん、どんなにくやくしく残念やったろう。

そしてそのサワギが終ったとたん、あいつは大森くんがいなくなつた法廷で、平然と「死刑」を云いわたしたのだ。

背すじが凍るようだった。私は夢中で立上り「おまえこそ、人殺しやないか、人殺し、人殺し」と叫んでいた。

「退廷」という声もみんなのさわざも耳にはいらず法廷に押し出されながら。

（このあと、私の前にすわっていたMくんも立上って、「こんな裁判やめてまえ」と一声叫んだだけで「拘束」。その他七人八人が退廷させられたとか。Mくんは、三時間ほど釈放されたが、お腹すいたといって、札幌ラーメンが食いたいといったら、取ってくれたんやと、毛布（そのあと）かりて、ねてきたそうや。）

私は「退廷」で廊下に出た。もうたまらなくなつて、ワーワー泣き出してしまった。

気がつく。大森くんのお父さんが私の肩を支えて下さっている。こっちが反対になぐさめなアカンのにー。

しかし、「死刑」なんて、ホンマに信じられんようなことばのひびきやで。こんな絶対的な意味を持ったことばを、あんなふうな事務的に、平気な顔して、よお云えたらもんや。思ひ出すと、今も体がふるえてくる。

それを、あいつ生島は、平気な顔どころか、云いおわたさうには、となりの奴と顔を見合わせて、ニカツとしたとゆうんやから、ナックシヨウ。

大森くんの裁判は、なりふりかまわぬ政治裁判や。権力の本性をはっきりとむきだして、やっていようがやっていまいが許容の限度を越えた大森くんの思想そのものを抹殺するという現代の大逆事件そのものや。

(▼)「道片爆破を支持し、再爆破せよ」という大森くんの宣言が、何よりも権力を撃ちつづけ、畏怖させている思想闘争そのものなのだ。このことの意味が、北海道へきてみてはじめて判った。

三月二十九日の大森裁判は、道片爆破を裁いたのではない。

道片爆破以上に危殆にまみれない大森くんの思想——しかもそれがアイヌモシリのまんなかの獄中からであることによって、いっそう意味をもった斗いとなっている、その思想闘争に対してこそ、「死刑を宣告した」ということだ。

(▼) それにしても、思想が裁かれ、「死刑を宣告される」というおそろしい時代の到来を眼のあたりにして、思想がちがうということが仮にあるとしても、この裁判を傍観しておられるだろうか。

ところが、私がひそかに思った。——あんな奴らに、ほんとうのことを云ってやることはなかった。云わなければ、死刑にならなかったかもしれない。

そして、判決のあとの集りの時、そのことを話したら、荒井まり子さんのお父さんが、「それはちがう。大森くんが、あれほど堂々と自分の考えを法廷で述べたからこそ、こっちで仲間がふえたじゃないかしら」といわれて、ハツとした。

これくらい云ったらこれくらいおまけしてくれるやろかとか、これをいわなかつたら、あんな奴らだろうかなんていうような、かけひきや助平根性とはいっさい無縁の大森くんのま正直さ、その思想性こそが、カ、なんや。

自分が不利になろうと、ならなろうと、アイヌモシリの側に立てば、未知の同志がやっただ道片爆破は、やっていない大森くんにとって、自分がシヤモであることではなおさら、支持するという立場以外にはないではないか。

しかしこの時、このことの意味をまだ私は十分わかっていたとはいえない。

大森くんの判決のあと、サッポロを出て、

ニイカップ・シズナイ・サマニ・エリモ・ヒロオ・オビヒロ・イケダ・クシロ・テシカガ





シャリ・アバシリ・アサヒカワ・そしてもういちどサツボロとまわりながら、なんとなしにだけど、しだいにはっきりしてきたものがあった。

それは、何よりもここは北海道ではなく、「アイヌモシリ」や、「アイヌの住む地」や。そこへ私たちがシャモが入り込み、おしのけサギ・ペテン・強喝・懐柔・搾取・侵略のかぎりをつくして自分たちの国としていま住みついているのやということだった。

x

x

x

ニイカップでひと晩泊めてもらったMさんには、アイヌの反日の英雄シャクシャイン像のある真駒山を案内してもらった。

Mさんがいちばんはじめに赴任した小学校は御料牧場があることで、御料牧場に務める日本人とアイヌの子どもたちのえらい差別からアイヌのことを考えるようになったという。

だけど、アイヌの問題を勉強して、そのことを知れば知るほど、自分がおしえていかわからなくなってきた。だって、自分がいい先生であるということ、アイヌの子どもたちに日本語をよく教えるということなわけだし、それはアイヌを同化しながら抹殺することだ。

そういう時、東アジア反日武装戦線の、北海道開拓の功労者の碑、「風雪の群像」爆破の記事を新聞で読んで、ものすごいショックを受けたんだという。なにか、ボンヤリしていたものがスッと見えたというか、ハッキリしたというか、

自分はバクダン投げる度胸はないので、まず日本語をこわす、という意味でエスペラントをはじめたんだという。

（このこと、帰路、東拘の黒川さんに面会して話したら、「アイヌ語を習ったらいのに」とあっさり云われてウーン。黒川さんらしくてあとで思い出して笑っちゃった）

Mさんは、エスペラントでアイヌのことを小説にしたりして発表してはる。そのことを私は単にエスペラントから、と聞いていたんだけど、キッカケが「風雪の群像」の爆破にあると聞いて、東アジア反日武装戦線の人たちがやったことの意味の深さをあらためて思った。

ウィルタのゲンダーメさん

アバシリでゲンダーメさんに会った。ゲンダーメさんは、北方民族ウィルタ。ウィルタというのはとなくいっしょにくらす人という意味で、アイヌから「オロッコ」と呼ばれている。ウィルタはいま北海道に11人しか残っていないという。

「われらには、国境ということばもないし、戦争ということばもない。戦争がないんだから平和ということばだってないよ。われらは、ロシア語・アイヌ語・シャモ語・中国語・朝鮮語、みなしゃべれるよ。トナカイといっしょに移動しながら、そこでくらす人々みんなと仲良くくらしってきたんだ。」

「われらは、あつのお湯をそのまま土ですてたりなんか絶対しない。そんなことしたら土が死んでしまう。草だってはえてこない。」

魚を取るんだって、あんな根こそぎ取るようなやり方はしないんだ。だけ文明人がわしらを追い回した。」

「戦争で、わしらは日本人でもないのに、兵隊に召集され、謀報活動をさせられた。わしらは鉄砲の名手だし、日本人が歩けないツンドラを自由に動きまわれるし、いろんな国のことばしやべれるし、よく知ってるからだ。」

戦後は8年もシベリアに抑留された。や、と帰ってきたも、日本国籍がないということではじいじの目にあった。

台湾人の元日本軍の兵士だった人が戦後補償の裁判をしているというのを知って、わしも立ちあがった。七年前のことだ。

わしは少しでもウィルタの文化を守り、それを子供や孫に伝えたいと思って資料館を自分ではじめたんだ。」

私は、ウィルタという人たちの存在をはじめて知った。アイヌの他にもギリヤークなどいろんな民族がこの地には、ついこのままでくらししていたんだということ、はじめて知った。そして、その人たちの平和な生活をうばいとったのが、私たちの日本だということも。

「いまでもわしらは「エム」としてあつかわれているんだ。「旧土人保護法」なんて法律で、わざわざ土人ということばを使わなくてもいいではないか。」

さりげない語り口のなかの、底しれぬほど深くに沈んだ「ゲニターヌ」さんの怒り。ウィルタやアイヌの人たちのみんなの怒りを、どう受けとめるのか。私は「それ」をきく以外にどうしようもなかった。



迎へ

行ったとき、宮古でおぼろさんか「ヤマトウ」ときいてきた。ああ、私はヤマトなんや。沖縄を侵略しつづけているヤマトの人間なんやなあ。と感ぜないわけにはいかなかった。

沖縄独立ということはめいたことがある。ただ、同じ意味で、北海道のことを考えたことはなかった。

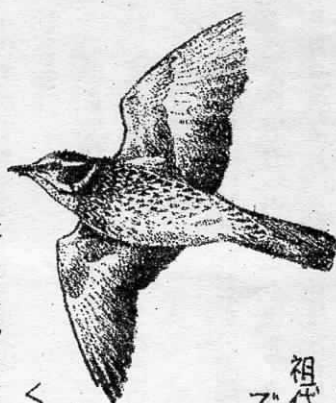
北海道・本州・四国・九州は、まづ日本の土地といつてもえやろと、なんともなく合算していたのだ。だがそれは、無知というだけではすまされないような、大きなまちがいだった。

アメリカは、ほんの数百年前、ヨーロッパから移ってきた白人たちが、インディアンたちを虐殺しながら、つくった国やということばは誰ぞもしつてる。そのすさまじさは「ソルジャーブルー」や「川を渡る巨人」そして西部劇の数々でも、二倍は証している。

北海道も全く同じことやったんや。移住してきたシヤモが、ア

アイヌモシリへの旅
3/26 ~ 4/11, 1983





イヌからずばてをうはいとつた今は、先

祖代々から自分の土地のようは懸つき

で、まだ今も踏みつけたままだいる

アイヌたちのことは都合よく忘れ

て、のんびりゆたかにくらして

いるのだ。

3月29日・大森判決の当日、大森

くんをすつと救援しているアくんが

「ここはアイヌモシリ。日本の裁判所に裁判権はない！アイヌモシリ独立を」とプーガードにかいて、おまじがーゴだ。

それに私は一応なつとくしなから、だけれど一般市民には、情実をきてわからへんやろ。判らへん以上に、一部の奇異な主張としてバカにされるんちやうゆろか、と思った。

だが、アイヌの人たちのおもいからすれば、それこそがあたりまへの、当然か、げねばならぬことだつたのだ。

たとえシヤモの市民たちがどう受取ろうとも、「ここはアイヌモシリ」であることに於いて、当り前すぎるほど当り前のことなのだつた。



考えてみると、東アジア反日武装戦線の大迫幸くん、あや子さん、斉藤和さん、佐々木さんは北海道の出身やつた。

大迫幸くんには、子供の頃からシヤモがアイヌに対してどんな仕打をしてきたか、自分の眼でみてきたということがあるんやう。

北海道へきてみてはじめて気付いたんやけど、アイヌの立場からは「反日」ということばは、ごく自然の、当然なことばとしてわかる。なんもむずかしいリクツの中から編みだしたもんやない。と。大迫幸くんらにとつても、自分が生き育つてきた「アイヌモシリ」の風土の中から、全く当然のものとして、自分がシヤモである故になおやらのものとして、「反日」が出てこなければならなかつたということなんや。

はじめ北海道を旅して、へ何と今頃……と笑われるかもしれないが、東アジア反日武装戦線が「反日」という原典として、いままで私が思っていたことは全く異質の、私自身に密着した切実な関係として、現実として「アイヌの問題がある」ことが、ようやく判りだした。

そして、「反日七国」「日本を懲りれ」という大森くんが、自分をほつきりとアイヌモシリに立場をみているからこそ、そうないいうのだ、ということも……。



III わがアイヌ・シヤモを どこに求めるか……

大森くんの救援体制は、とくに允許サリホロでは一へ今までに面会者がいなかつた……というところでも知れるように、ほとんどの口に近い状態だつた。

それは、爆弾事件であること。ちやうど助けは関連者として登場

にマークされるうさぎ、かわさの道警の過敏ぶり、異常な警備は想

像以上で、サッポロでの三日間私らめいにも、まいてまいても新しい尾行がついたし、も原因のひとつだけれども、もうひとつは何となく感じたのは、それがアイ又問題と不可欠に関連しているから、というところだ。だからやないか。そしてこれと思ひすがもしれへんけど

北海道では、アイ又のことを問題にすることは、大段で「部落」を問題にすること以上に、或る意味で暗黙裡のタブーとなつてゐるやないか。へつまりアイ又のことを問題にするということは、そこに居

ずわっているシヤモのこと、自分を問題にせざるをえない。シヤモとしての自分の存在自体が全否定されかねないからだ。というところが、サッポロの人たちを大森事件に近づきがたくしてきたくやないか。

判結後のあつまりで、障壁を差別にとりこんでいる A さんの

「北海道は、朝鮮人にとつての朝鮮総督府バク夜と同じ意味をもつ、といわれても、オレはここで生れ、ここで育つた。他のどこへもいくところなんかはない。どあせそというんや。おれの先祖は、

内田を造られるようにして、この地に移り、山野を切り拓いてやつと安住の地にした。それをいうなら、おまえら内田の人間も悪いのでは一しよやないか。」「という直截な悩みが、その一端を語っている。

そして私には、それにどう答へたらよいのか、よくわからない。

x x x

クシローシヤリアバシリアサニカワーとまわつて再びサッポロに戻つて、もう一度、大森くんと面会した。

大森くんはいつものように明るく元気だったが、裁判長をなぐりそこねたことで、「オレはアカンなあ」と、すこしよびているふうだ

つた。

「無実なのに死刑なんてバカな芝居を返して、裁判長をぶんなぐつた罪により死刑」というパロディを演じたかったんやナア、大森くん。また逢いにいくよ。

時間まちに、シミコミ喫茶ひらひらへいき、そこへ M さん旧知の江原光太さん、花崎景子さんがきて下まつた。M さんと話が行き交うのを横で聞きながら、この旅の一つのしめくくりとして、花崎さんのはなしの「つがひ」にふかぐとまつた。

「いまではほとんどの場合、混血同化がすすんで、純粋なアイヌというのは、ほとんどいない。だからアイヌ問題、少数民族問題というのは、もう現実にはないんだ」というようなおわれ方がされているけど、それはとてもない認識まちがいや。

アイヌである、というのは、純粋かどうかというふうな、血の問題ではない。

自分の「アイデンティティ」を、どこに求めるか、という問題なんや。だからアイヌの運動が大きなれば、混血アイヌの中から、自分はアイヌであるとか東洋人が、どんでんてくるにちがいない……」

それについて M さんは、帰路、

「自分がまずアイヌの側に身をよせること。自分を「混血シヤモ」として、そのアイデンティティを見通すことや。」「となつた。

（4 月 16 日 夜記）



東京でエニメーション・クラブさんの話をきいた。……… 賑がくちむような街歩きだった。4.29集会！あなただけの国りを必死に動員して、参加を！

4.29 天皇がなんか気になる日

とき PM1~5

ところ 梅田太融寺 (06-311-5480)

入場カンパ 800円

▼ この集りに来た人の心の中に、なぜか何かの動き出す、あたらしい風が生まれる！そんな集りを！

▼ たとえば休けいの時、偶然とばかり合せとか真向いに坐つた人と話がはずみ、名前やところを知らせあう！そんな集りを！



▼ すみで黙っていた人も、とても大々しくしゃべつた人もみんな同じく帰る途、ポケットにリンゴの重みがひとつづつはいつているのに気付く！そんな集りを！

▼ やあーと気軽にくさぐさびひ、きつと呟かけて下さい。待ってます。(まち)

雑記

▼ ハコダテの朝市には、じまつて、ナツホロの二条市場、クシロの和商市場、それに八戸と、実によく市場をまわった。みたこともないような魚や貝が、まるでドサツと、びっくりするくらい、の豊富ででたらんでいて、それになんといつても安いのだ。見るもの見るもの食べたくなって、ずいぶん買ったナ。次の宿に持って行って、そこで焼いてもらったり、弁当にいられてもらったり。どうもほんとにお世話になりました。

▼ 帰りがけも汽車で、青森のオオワニ温泉のある山田駅二さんのとこ、こいがかじくくりを出している八戸の反原菜花ループの仲間のとこ、それから向井さんの古い仲間、喜多方の新明丈吉さんのお宅と、まわりながら東京まで来た。それそれについても報告したかったのだけど、今回は北海道のことだけになってしまった。

▼ 東京、4月10日大森裁判所弾劾会に参加した。そこで聞いたエレイン・アイアンクラウドさんの話は、まるで電撃さうけたような強烈なものだった。大道寺さん黒川さん片岡さんにも面会した。片岡さんなんて私と会うまえは、私を切オくらいいの人と思ってたなんていつてたけど、みんなやっぱり実際に会って直接に会ってみるんだが、いいやな、グツと近くなつた感じがした。

大道寺さんと同級生でアイヌのM子さんに東拘で会った。M子さんのひ



戦害別
公選
反反反

大阪府東部の区役所
22-12-2
戦後教育センター
日本館の向かい
一九八三・四・二〇(金)
カハ(一)部連来一〇〇円

「お便り」 関係者の
健上げは、ミニミをつつて
いる人には届かた。手配りの
問題を考えるに、早内やち
れんじや、ミニミらしくも
ない。………
の母は、これに抵抗し、
と嘆息する。
「この問題にはつてある切手
を水洗いして下さい。すると、
スタンプが消えます。切手の上
にフリを貼つてあるのです。こ
の切手を水洗いするとそれはあ
なたの勝手です。が、あなたも
やつてみませんか。みんながそ
うした時のことを願ひてみて
下さい」
切手自体の印刷も薄くなる
から、四、五回くらいしか使え
ない。それでも切手代は四分の
一、五分の二で済むことにな
る。実はこの方法、ミニミを
発行する郵便局に、郵力と広
がりつつあるのだ。

1972年 5月17日 朝日新聞(記)

宇利乃平加一乃あはれ止茶 喫天乃乃を我

振替・大阪一三三三三七 ウリジャパン